

太陽光発電の設置祝う

上鳥羽北部市民活動センター

市民らの寄付を生かして建物の屋上に設置された太陽光発電設備(京都市南区・上鳥羽北部いきいき市民活動センター)



で、発電した電気は全て売る。設備の費用は約460万円で、同委員会の資金と市民らの寄付金を充てる。

点灯式では、発電した電気を使って照明がともされ、出席した住民らが完成を祝った。前川勝六委員長(70)は「子どもが自然エネルギーや環境の大切さを学ぶ場としても活用したい」と話した。

(近藤大介)

京都市南区の上鳥羽北部いきいき市民活動センターに、太陽光発電設備「上鳥羽北部いきいきおひさま発電所」が設置され、5日に記念の点灯式が開かれた。

東日本大震災を教訓に、災害時に地域で利用できる発電設備をつくろうと、同センターを運営する中唐戸児童

館運営委員会が発案した。市民らの寄付を積み立てた基金を生かして「おひさま発電所」の設置を進める認定NPO法人きょうとグリーンファンド(下京区)が協力した。同法人のおひさま発電所は府内で19カ所目となる。

センター屋上に太陽光パネルを62枚並べた。最大出力は10キロワ